2－2　相観植生とナンキンハゼ分布

●植生調査の結果や現地の観察から、生育地の光条件がナンキンハゼに与える傾向をまとめた。

各種植生のナンキンハゼの光条件
・第１に樹冠の遮光、第２に地表植生の遮光※の影響が大きい。
・大径木の枯死（ギャップ）や山焼きは光条件を優位にする。

※コシダ群落とウラジロ群落ではナンキンハゼはまったくみられなかった。これは，これらの群落へのナンキンハゼの侵入が極めて困難であることを示している。

出典：淡路島の森林伐採跡地に分布する外来木本ナンキンハゼ群落の生態的特性と成因（2012）石田弘明ほか

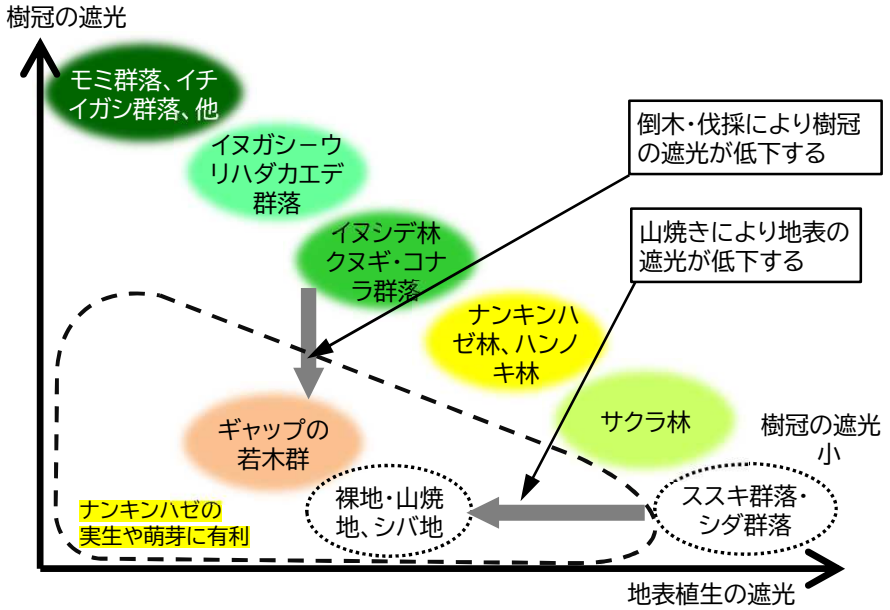


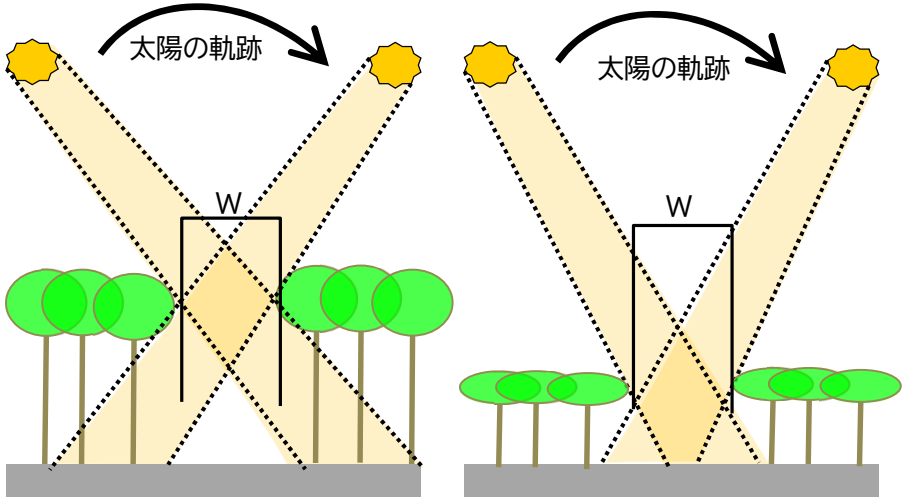
図1　概念図　樹冠・地表植生の遮光と植生

樹林においては、樹冠の遮光が大きいほどナンキンハゼの侵入が少ない。ギャップの発生はナンキンハゼに侵入する機会を与えている。

ギャップにおける群落高の影響
・樹冠の遮光は、群落高が高いほど効果が高い。（図２）
・群落高の高いギャップは、ナンキンハゼの実生苗は少ない。
・群落高の低いギャップは、ナンキンハゼの実生苗が多い。

群落高が高いもの	群落高
クヌギコナラ群落	18m
イヌシデ群落	22m
イチイガシ群落	25m
モミ群落	30m

群落高が低いもの	群落高
イヌガシ-ウリハダカエデ群落	9, 12m
ヤマザクラ群落	10m
ハンノキ群落	8m



群落高が高いと日照は分散し、面積当たり日照量は低くなる。成長し樹冠に達するまでの年数が長い。

群落高が低いと日照の分散は少なく、面積当たり日照量が高くなる。成長し樹冠に達するまでの年数が短い。

図2　ギャップの群落高の違いによる日照分散の違い

ギャップが発生しても、樹高が高いほどナンキンハゼの侵入・成長は難しくなると考えられる。

2－3. ナンキンハゼの分布域の環境

ナンキンハゼの分布域を、侵入要因になったと思われる環境に大別した。

- ①湿地・水系付近　：湿性環境により植生が貧弱な箇所
- ②草地（侵入当時）：草地が樹林化した箇所
- ③低林・散生林　　：群落高が低い群落・樹木密度が低い群落
- ④樹林地のギャップ：風倒やナラ枯により樹冠が空いた箇所

左の環境区分は、植生の変遷やナンキンハゼの大きさから、概ね①から④の順に起こったと推察される。

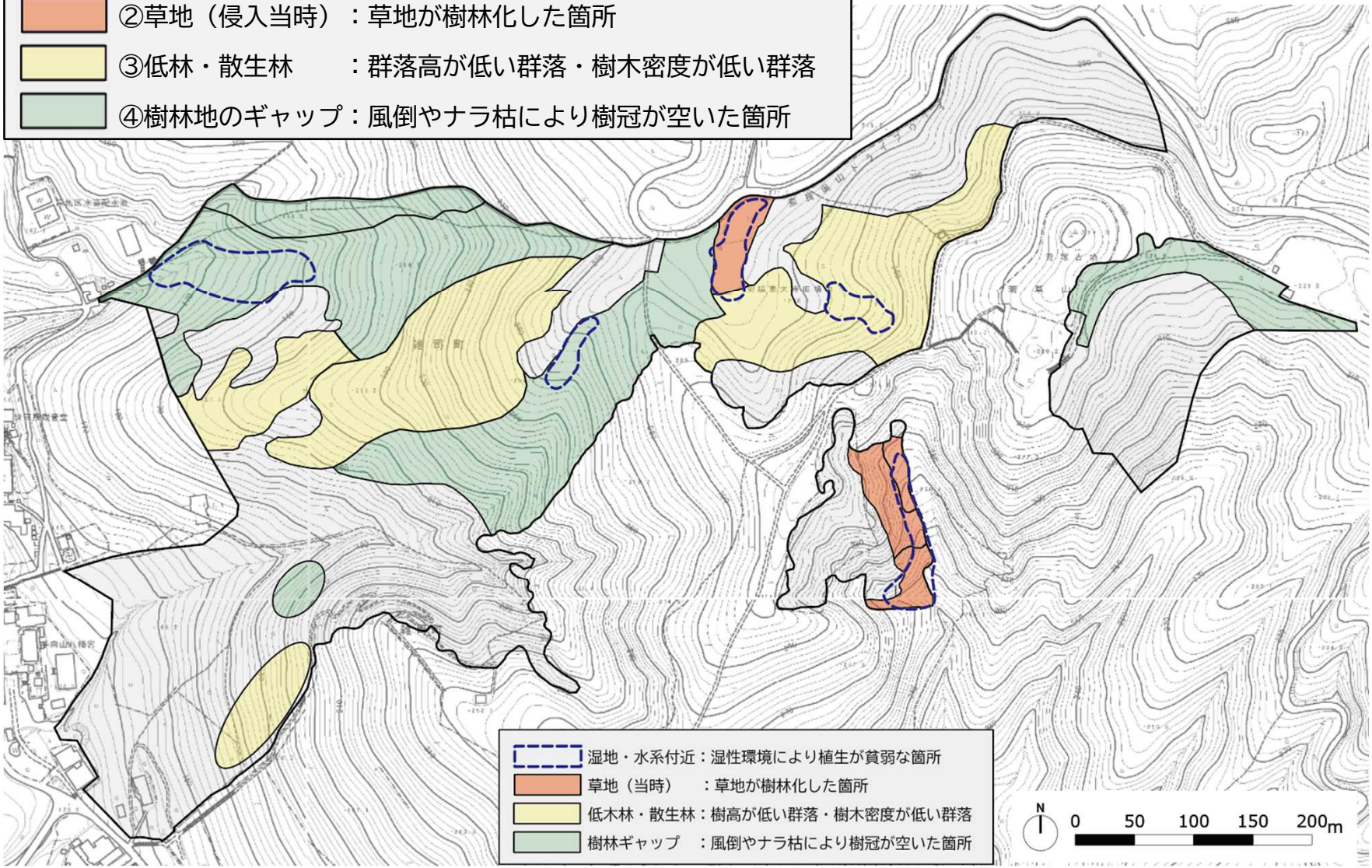


図　ナンキンハゼの分布域の環境区分

2－3. ナンキンハゼの分布域の環境

①湿地・水系付近

・共に谷地田跡にナンキンハゼ林を形成
・地表に日照が届き草本が被う

②草地（侵入当時）

・ナンキンハゼにハンノキが混じる
・地表に日照が届き草本が被う

③散生林（サクラ林）

・林間にナンキンハゼが若木が群生

・地表はイワヒメワラビ

③低林（イヌガシ-ウリハダカエデ群落）

・鬱閉したところは草本が見られない
※黄色テープはナンキンハゼ

・樹冠を越えて成長するナンキンハゼ

・明るいところは草本や低木等が見られる
※黄色テープはナンキンハゼ

④樹林地のギャップ

・最近に根返り風倒したシラカシ
・草本やナンキンハゼの発生が想定される

・ナラ枯によって生じたギャップ
・ナンキンハゼ若木が多数見られる。